

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393800186		
法人名	社会福祉法人白寿苑		
事業所名	グループホーム小牧白寿苑 (楓ユニット)		
所在地	愛知県小牧市大字岩崎字山浦1432番70		
自己評価作成日	平成28年 8月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族様のご協力を得ながらご入所されている皆様の支援を行なっている。 ・運営推進会議や地区長様、民生・児童委員様との情報交換会を通して地域住民の方々の交流を進めている。 ・職員の半数以上が介護福祉士資格を有しており、高度な知識と技術を持って支援を行なっている。 ・ご入所されている方に介護の必要性が生じても対応できる設備を完備しており、また併設している施設との連携により安心してお過ごしできる環境が整っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2393800186-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年開設された当ホームには、特養、ショートステイ、デイサービスが併設された複合型の施設でもあるため、利用者の様々なニーズに対応する事が可能である。利用者の身体状態等により、グループホームから特養への移行、反対に特養からグループホームへの移行も行われており、グループホームの生活に合っているが入居できるように関連事業所間での連携が行われている。地域の方との交流についても関連事業所とも連携しながら行われており、地域の代表者との情報交換会の機会が生まれ、施設全体で地域貢献を行っていく姿勢が伺える。また、グループホームホームを含めて施設全体がゆったりとした空間が確保されていることで、利用者のその時の気分により屋上の場所や広い玄関ホールで寛いだりすることが可能であり、日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われてい</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年9月12日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の基本理念である「敬愛」の気持ちを持って日々ご利用者の支援を行っており、管理者と職員は、その思いを共有して実践につなげていくよう努力している。。	関連事業所との共通の理念を当ホームの基本理念としており、施設内への掲示も行われている。日常の朝礼の際に職員間で指針でもある「モットー」の唱和を行っており、日常的に理念の共有と実践につなげている。	グループホームでもあるため、法人の基本理念と合わせて、グループホームの視点からの独自の理念、目標等の取り組みにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・地区の区長さんや民生・児童委員の方々と定期的に会合を持ち、情報交換している。 ・定期的に介護相談会を実施し、地区の皆さんに介護についての説明会を行っている	開設2年目であるが、地域の方との交流の機会をつくり、ホームを知ってもらう取り組みが行われている。関連事業所とも連携しながら、地域の代表の方に集ってもらう地域情報交換会を開催しており、地域貢献につながるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・介護相談会の中で、認知症の方を含む在宅 サービス利用の説明を行い、ご周知いただくように努めている。 ・地域包括支援センターとの協同にて地域の方に認知症についての理解を深めいただくための機会を設けるよう検討している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	おおよそ2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、当グループホームの実施状況を皆さんに説明し、様々な面でアドバイスをいただき、今後の施設運営に活かすよう努めている。	会議は併設事業所との合同で開催され、現状を報告しながら出席者との意見交換を行い、運営に反映できるように取り組んでいる。また、会議に地域の方が出席しており、地域に関する情報交換にもつながっている。	併設事業所との合同の会議であるが、出席者が限定的になっている。出席者の幅を拡げることで、多くの方に施設全体への理解が深まることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議で連携をとることはもちろん、サービス面や苦情への対応、事故報告及び対応、相談・確認など密に連携をとり、協力関係が築けるよう努めている。	市内の介護事業所が集まる連絡会に出席し、連携と情報交換につなげている。また、関連事業所とも連携して、市の介護事業のモデル事業に協力している他、介護相談員の訪問があり、情報交換等につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修等にて身体拘束とはどのようなものか職員に正しく理解してもらい、利用者の尊厳を重視して、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいく旨、全職員に周知している。	フロアが広く、利用者が自由に移動できる構造であるため、職員間で連絡する等の見守りにも取り組んでいる。また、専門の委員会での検討や研修会の機会がつけられており、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束の研修において同じく虐待についても言及しており、防止に努めている。入浴時など身体の状況についても確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	各公的制度について書籍などの購入で各自が学べるような機会を設けているが、活用できるには十分とは言えないため、主たる職員から学ぶ機会を設けるよう検討する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項や契約については十分時間をとり、ご家族にご理解いただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ご意見箱を玄関に設置し、それらをサービスの向上に役立てたいと考えている。 第三者委員の設置 日常のサービス面においては介護計画の中でご意見や要望を反映させている。 	ホームで実施した外出行事に家族に案内を行っており、家族の参加も得られている。法人の第三者委員を明記していることで、意見や要望等を出してもらい機会につなげている。また、法人の機関紙の他にもホーム独自の便りの発行も行われている。	家族との交流の機会が増えるように、ホームで開催する行事に家族に参加を呼びかける等、継続したホームの取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	主任会議、リーダー会議、職員会議の中で職員からの意見や提案を行う機会を設けたり、職員個々の面談を通じて職員の意見を反映させていけるよう努めている。	ユニット毎に会議を行っており、職員からの意見等は関連事業所とのリーダー会議や法人の会議等で検討され、運営への反映につなげている。また、施設長による個別面談の機会がつけられており、職員との意見交換に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職場環境に必要なものを整備するのはもちろん、職員の勤務状況についても人事考課にて適正に評価できる仕組みも作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新入職員に対しては様々な講義による研修やOJTの実施。 内部研修にて研鑽する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	<ul style="list-style-type: none"> 小牧市の事業者連絡会に加盟し、事業所間の交流や情報交換に努めているが、より多くの職員の交流する機会を検討。 沖縄の施設と提携を行っており、相互に交流を行なっている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時にご利用者様のこれまでの歴史をご記入いただくものを用意しており、その内容を職員に周知し対応するように心がけている。また、日頃のコミュニケーションを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所申し込み時にご家族に現状をお聞きし、入所において困っていることへの対応、あらたに生じる不安などをお聞きして一緒に模索していくことで一体となれる関係作りに努める様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・入所の申し込み時、現在利用している介護サービス、その他のサービスを確認し、入居までに必要とされるサービスを提案するよう努めている。 ・サービス導入時はカンファレンスを行い、対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	認知症やその他の症状に合わせたユニットでの役割を一緒に考え、またその方に合った暮らしを理解した上で関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ユニット内では面会時などご本人とご家族への配慮を行なうことはもちろん、面会に來られないご家族に様子をお知らせし、面会が途切れないように促し、協力関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係者や知人の面会時の配慮はもちろん、近隣への散歩や外出、家族への働きかけを行い、馴染みの地域にお住まいであるという安心感を持ってもらっている。ただし、十分とまでは支援できていないので継続的な努力は必要。	利用者の友人、知人との交流を継続している方や入居前からの関係を継続している方もいる他、行きつけだった喫茶店等への外出も行われている。また、家族との食事や買い物に出かけたり、時には墓参りや法事等で外出している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の個性を把握し、気の合う方がいれば、その輪の中に職員も入りコミュニケーションが図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	施設や事業所が変わっても必要に応じて支援を行なうように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時に意向をお聞きするのはもちろん、随時ご本人から希望をお聞きして支援計画や日頃のサービスに反映するよう努めている。	職員一人ひとりが把握した利用者に関する気付き等については、毎月のカンファレンスの機会で見直されている。また、利用者のアセスメントを3か月毎に実施することで、利用者に関する意向等の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に定型の様式にてご本人の生活歴をご家族様からも伺うようにしており、その後もご本人からコミュニケーションをしながら伺うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・日頃より職員が注意深く観察し、ミーティングや職員会議などで情報を共有するよう努めている。 ・毎日バイタル測定を実施、日々の状態については申し送りノート等で情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	面会に来られたご家族に気づいた点や要望などをお聞きしたり、随時ご本人の希望を職員が聞き取り、カンファレンス等での職員の意見を反映した支援計画を作成するよう努めている。	介護計画については基本3か月毎に見直されており、モニタリングも見直しに合わせて実施され、家族との面談も行われている。また、職員は利用者に関する支援内容と変化の把握を行いながら、日常的にチェック記録を残すように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	普段の様子をケース記録等に記載し、職員共有のものとして気づきや変化を支援計画に活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入所者の身体の変化などに対応できるように設備面は機能的にできている(トイレは全て介助用・入浴は機械浴整備)、状況により家族に代わり書類等の提出など支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の公的施設や遊技場などを把握し、なるべく外出を行い、親しんだ地域で楽しんでいただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族の希望により、施設の協力病院を紹介し、訪問診療に来ていただいている。緊急性の高い場合の診察は、職員が受診介助を行なう。 夜間緊急時はドクターカーを要請	併設特養の嘱託医が毎週訪問しており、医療面での支援も可能であるが、今までのかかりつけ医を継続も可能である。受診は基本家族対応であるが、状況によりホームでも対応している。また、特養に看護師が勤務しており、必要な連携が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員が日々の中で、状況が変わった時や気づいた点を看護職員に伝え相談し、ご家族や協力病院に連絡し、適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院に出向き、ソーシャルワーカー等との関係を築くように努めており、必要時はすぐに情報を提供できるように準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所者の状況を把握し同建物内の特別養護老人ホームと連携をとりながら重度化しても十分な介護が受けられるよう努めている。	ホームは、併設の特養と連携して対応していることもあり、ホーム単独での看取り支援は想定していない。特養の職員との検討を行いながら、その方に合った支援内容を検討している。その上で、家族との話し合いを行い、特養への移行も話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルが作成されていることはもちろん、新人研修時や施設での内部研修において専門の職員により応急時の訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画を消防署に提出しており、年に2回夜間を含む避難訓練を実施している。 定期的に地区の区長さん方と情報交換会を行い、有事の際の協力をお願いしている。	開設以来、定期的に避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や関連事業所とも連携した訓練も実施している。消防署員の訪問もあり、必要な助言等を得ている。また、厨房業者とも連携して、必要な備蓄品の確保が行われている。	非常災害時には施設内の利用者以外にも、地域の方の一時的な受け入れも想定される。地域の方との連携を深める取り組みや備蓄品の確認等、施設全体での継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・年長者であるご入所者に対し、常に基本理念である「敬愛」の精神で接するよう心がけており、職員にも周知するよう朝礼にてモットーの唱和を行なっている。 ・言葉遣いマニュアル参考	法人全体で目指している「モットー」を基本にしながら、開設初年度である昨年度に研修を実施し、職員が日常的に意識するような働きかけが行われている。その上で、気になった際には、管理者やリーダーから注意を促していく取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃のコミュニケーションの中から気軽にお話いただけるようにし、ご希望をお聞きするように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の予定や行事を案内して、ご自分で参加されるか決めていただく。その日の気分を考えた声かけを行い、支援していよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	寝る時の姿、起床時の着替えを支援したり、一部の方になるが、お化粧の支援や快い声かけなどにより、その人らしい装いが図れるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しんでいただけるよう、季節のものを取り入れており、器にも工夫を行い、日に応じてランチョンマットやお盆など気分を変えるような工夫をしており、入所者の皆さんにも配膳などお手伝いいただいている。	日常の食事については、施設の厨房から一人ひとりに分けられて提供されている。トロミや刻み等の対応については、厨房とホーム職員が連携して対応している。また、時にはホームのキッチンを利用したおやつ作りが行われている。	現状の食事の提供については、ホーム職員が対応する場面が少ないこともあるため、一部のおかず等、ホームでの食事作りについて、関係者との検討も深める取り組みにも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	専門職員による献立にて栄養量の確保はできており、食事形態は状態に応じて対応しており、摂取量も記録している(毎月、体重測定を行い、体重の増減も把握している)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご入所者の状態に応じて、ご自分で歯を磨かれた後に職員が見直したり、うがいの介助をするなど個々に応じた支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録により排泄のパターンを把握し、声かけや支援によりトイレ内での排泄を促すように努めている。	職員間で利用者全員の排泄状態に関する記録を残しており、一人ひとりに合わせた排泄支援を検討している。利用者により、日中と夜間でオムツ類を使い分ける等の対応が行われている他、排泄につながるように日常的な体操の時間もつくっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物や水分の適量の摂取、体操・レクリエーションによる腸内の活性化を図るとともに、必要に応じて医療機関への相談を行なうよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴へのお誘いを行うが、気分的に応じない方については時間をずらしたり、日にちを変えるなどして、その方のペースに合わせた支援を行なっている。 入浴は一定の日時を決めさせていただいている。	ホームでは週2～3回の入浴となっている。時間については午前と午後で対応していることで、ゆったりと入浴している。ホーム内に重度の方に合わせた機械浴の設置が行われている。また、季節の柚子湯や菖蒲湯の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室で休まれる方、テレビを見る方、会話を楽しまれる方とその方の習慣にあわせた支援を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は薬剤情報に基づき、薬の効能や副作用を把握している。また、配薬においては確認事項をマニュアル化してミスがないよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入所の皆さん、個々に役割をお願いし、社会生活への参加として捉えている。全てに対応ができていないわけではないが、生活歴から得た個々の趣向を取り入れた支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	予定を立てて近隣への散歩や買い物などの外出を行なっている。その日の天候や気分が気軽に外出できるようご家族の協力も得ながら進めていきたい	施設内が広いこともあり、利用者の様子を見ながら屋上や1階のフロアを歩くこともあるが、外に出て近くのコンビニ等に出かけることもある。外出行事を立てて県外の公園に出かける取り組みも行われている他、少人数での喫茶外出等も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭に関しては、必要時に施設が立替し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	1Fの事務所前に公衆電話を設置し、個人でかけられるようになっている。手紙についても同様に事務所から郵便局へ渡るように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	大きな窓から自然な光が室内を照らし、景色においても遠くまで見渡せる環境。清潔に心がけ異臭や不衛生なことが無い様になっている。室内のエアコンはもちろん床暖房も整備され年中快適な温度でお過ごしいただいている。リビングの飾りつけなど季節にあわせたものとなるよう工夫している。	ホーム内はリビングや通路が広く設計されて自由に移動できることで、利用者が日常生活で圧迫感を感じないような配慮が行われている。ユニット毎に飾り付けが検討されており、利用者と職員による作品の展示や季節に合わせた雰囲気づくり等が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの机は高さ調整ができ、自分にあった快適な場所となっており、ソファもあるので、思い思いの合う方々と歓談できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室においては、快適にお過ごしいただくため各部屋エアコン・床暖房、空気清浄機、洗面台が整備されている。部屋は広く空間を使用でき、ご自分の思い出の品など持込もことが可能。家族との時間もゆったりとお過ごしいただけるよう配慮されている。	居室についても広く設計されている他にも、空気清浄機を設置していることで、利用者が快適に過ごすことができるような配慮が行われている。利用者により、様々な持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の方もおり、利用者に合わせて居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物は完全なバリアフリーとなっており、全面に手すりも整備されている。居室には各自の名前を個々に合わせてわかりやすく表札としている。		